

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	437900435		
法人名	医療法人社団福本会		
事業所名	グループホーム和楽		
所在地	熊本県天草市牛深町1641番地4		
自己評価作成日	平成28年1月6日	評価結果市町村受理日	平成28年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成28年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町の中心の小高い丘の上に立地しており、ホームの庭には、家族会のご意見により移植された桜があり、各ユニットのリビングから桜の花や四季折々の花や緑を眺め楽しむことができます。庭では、ボランティアでのイベントを行ったり、お茶会をしたりして楽しんでいます。畑では、季節の野菜の種まきから成長し収穫するまでを入居者の皆さんと育て食する楽しみを味わっています。地域のさまざまな町の行事にも参加しており、春のハイヤ祭り、花見、年末のお楽しみ会等家族の方を交えて交流会を行っています。医療面の連携においても母体の病院があり、利用者の方、家族の方にも安心していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム開設から10数年の歴史は地域の中にしっかりと受け入れられ、その認知度は確固たるものとなっている。手入れの行き届いた中庭を中心に両ユニットが普段から行き来し、馴染みの職員とホーム周辺を歩いたり、行きつけの商店で買い物をし入居者の「おひさま今日もありがとうございます！。温めていただいて！」と、何とも愛らしい一言がそのまま毎朝の「おひさま体操」として活かされるなどどこにでもある日常が展開されている。母体医療機関を中心に職員の人材育成にも力を入れ、テーマごとの年間研修には全職員がその場で体験するよう2回に分けて実施し、資格取得のバックアップや縮小となった他事業所からの職員の受け入れなど法人の力を結集し、地域の中の事業所として活躍している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内には理念である「和やかに楽しく」は、すぐに確認できる場所に掲げてあり最低一日1回は見てサブテーマに沿って実践に繋げている。	理念である「和やかに楽しく」は、入居者やその家族・支える職員や地域全てを包み込んだ意味合いであり、ケアの指針として掲げたサブテーマと共に、職員の中にしっかりと定着している。家族には契約時にホームの取り組みを通じて理念を伝え、運営推進会議では地域へ向け機会あるごとにホームの姿勢を発信している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とも顔見知りになり、挨拶したり声をかけてもらったりしている。	近隣住民とはすっかり顔なじみの関係となり、散歩中や買い物先で顔を合わせ言葉を交わしたり、ホーム行事に声かけするなど交流を続けている。地域ボランティアによる『おひなさまコンサート』の開催や、地元婦人会・小中学生の訪問など人々の来所の機会も多く、職員が認知症の啓発活動に出向いたり、中学校の文化祭に招待されるなど、地域との繋がりがや役割が確固たるものとなっている。	中学生のナイスライの受け入れが法人で実施されているとのことであり、是非、当ホームでもコンタクトを取り、実現されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の中には、認知症を地域で支える会の会員が数名居り、小学校や公民館等で、地域の方に認知症を知ってもらえるためのボランティア活動に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を行う上で、委員の方には、入居者の方の状況報告やケアについての相談等を行い、アドバイスなど頂くことでサービス向上に活かしている。	2ヶ月ごとの開催は定着しており、包括職員や地域代表者・家族が参加している。毎回ではないが管理者や計画作成担当者他、介護職員も同席し、会議の内容を把握している。区長や民生委員からもたらされる地域情報を共有し、困難事例の検討や相談事に参加者からの意見や提案が出されている。	会議には現在、家族の代表が参加しているが、全家族に開催の案内をすることで参加に繋がり、より多くの意見が期待できるものとする。また、議事録については、検討課題や発言内容などを明確に記すことで、より分かりやすいものになると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政からの勉強会など参加し、分からないことがあれば、行政の方に電話相談してアドバイスをもらうこともある。	運営推進会議には行政関係者として包括職員が参加し、高齢者を取り巻く地域の問題や課題に意見を出し合い、よりよい方法を模索している。管理者は書類提出や何かあれば直接行政を訪れ、担当者と友好的な関係を築いている。	今回の外部評価の結果についても管理者は、直接行政を訪れており、ホームの現状を伝えながら合わせて運営推進会議への参加も打診されたと考える。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則、身体拘束は行っていませんが、言葉の拘束にならないケアをできるよう職員内で取り組んでいる。	法人で身体拘束をしないケアに取り組んでおり、全体研修は伝達講習ではなく、全職員がその場で直接話を聞くよう1日2回開かれるなど指導が徹底している。ホーム内でも普段から外部の事例などを通して話し合い、その中で職員のメンタルケアの重要性についても触れ、何かあれば全員で解決するよう申し合わせている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域や法人での勉強会への参加をして、共有し合い、理解と浸透を深め努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県主催の研修会に参加し、学び得ています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書を順番に説明し、利用者や家族の方が十分に理解してもらえたか、疑問等あらわれるときは納得、理解してもらえるよう時間を取り、説明をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しているが、会った時に家族の方の要望等は聞くことができる。家族の方も遠慮なく話してもらっている。	家族へは職員が手書きの便りで毎月入居者の様子を伝え、情報を発信している。面会時に訪れた家族には現状を見てもらいながらホームへの意見や入居者に対する要望などを遠慮なく話してもらうよう伝えている。本人の意見は日々関わる中で直接聞き取り、ケアの中に反映するよう努めている。	家族の意向を知る手段としてアンケートの実施も一案と思われる。職員で内容を検討し、実施に結びつくことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	休憩時間等に、意見交換を行い運営に反映させている。	開所13年目となるホームは職員の離職も少なく、馴染みの関係が入居者の安心するところとなっている。各ユニットは職員が自由に発言できる環境を整え、直近では遅番の勤務体制を見直し、仕事終了を夜間10時から9時に変更するなど、働きやすい職場環境に意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	相談等はいつでも聞けるよう心掛けている。年2回の人事考課を用いて、努力したこと、実績の評価など行い、働きやすい職場づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会では、昼・夕2回の開催することで、参加しやすい様、取り組んでいる。外部研修も参加希望者は確保できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会に所属し、情報交換をし、研修会にも参加しネットワーク作りに取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されるまでの生活を把握し、本人様の意向を汲み取るように努めています。日常生活の中で、安心して生活できるよう関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方や本人様のこれまで過ごされて来たライフスタイルや習慣、望む暮らし、要望など、十分に話を伺い支援に努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方、本人様の思いを伺い、十分な話し合いを行っている。これまでとの、生活の変化による、迷いや混乱がないよう必要な支援を見極めながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの出来ることを見極めて、共に活動することで、学ぶことも沢山あり、共有・共感し、共に笑い合える家族のような関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一月ごとの情報誌に、担当者が、日々の生活の気付きや気になることなど、手紙や電話等で話をして、本人様や家族の方の思い、要望や意見などいただいて支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的にはホームに訪ねて来て下さる方もいたり、馴染みのスーパーへ出掛けたり、入居されていた方のバラ園等に出かけたりしている。	地理的にも狭い地域性であることから、入居者にとっては風習や言葉、人との関りや行事など全てが馴染みであり、行きつけの商店での買い物や美容室の利用、恒例の祭りで日頃のダンスを披露するなど、同じ生活圏でこれまでの暮らしを支えている。入居者は家族の面会を心待ちにし、時には遠方より懐かしい友人の来所などもあっている。過年と共にこれまでの趣味の継続は難しいところであるが、庭で野菜を育て収穫の喜びを味わうなど、一緒に出来る楽しみごとを見出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	不安な方がいれば、安心出来る様に、声掛けて話を聞いてくださる方もおられ、職員が学ばされる時があり、見守りだけで、利用者の方同士が関わり合っていることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの入居者の方は母体である病院へ転院されるため、お見舞いに行った時に情報提供したり、家族の方とも会う機会は多く話す機会があり相談等聞くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの日々の行動や言葉を見たり聞くことで本人の生活しやすい環境が作れ、思いに沿った支援ができるように努めている。	職員を入居者の担当制としているが、全員で現状を共有し確認しながらプランへの提案を行っている。入居者と対峙する中で思いを聞き取り、表現困難な方へは動きや表情・家族からの情報をもとに総合的に判断し、支援する過程で評価している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで生活された生活スタイルを本人との会話の中で収集したりまた、家族の方に尋ねたりして自宅での暮らしに近い状態で生活できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタル測定を行ったり、会話することで、その日の体調を把握し状態を見てそれぞれの方が活動の発揮ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がモニタリングを行い職員間での話し合いを行い情報交換をあいている、また、担当者会議や家族の来訪時に意見や要望を聞きながら、次のプランへと取り組んでいる。	計画作成担当者は自らも夜間勤務に入り、入居者の日頃の状態を確認したうえで、ケア会議の中や担当者会議に参加する本人や家族、スタッフとさらに課題や評価を煮詰め現状に即したプランを提案している。今でもズボンのゴムの入れ替えをする方、食事の様子からすぐに歯科医の往診に繋げ食材によって食事携帯を工夫したり、入居者の一言から生まれた“おひさま体操”の継続など、個人の力を最大限活用しながら不足を補う内容としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の個々の記録の他、変化があれば連絡ノートを用いて、全スタッフに情報が共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体が病院である為、定期的受診や必要時は、リハビリへの受診介助も行える。月2回は訪問看護も受けられていて、緊急事でも柔軟な対応ができています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春に開催される地域の祭りを毎年応援見学に出かけている為、地域の方にも馴染んでもらえ、声をかけてくださる。秋には音楽祭や文化展への出品し、楽しんでもらえる支援ができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院には、内科・眼科があり、月1回の定期受診があり、異常があればすぐに主治医に連絡し指示をもらっている。主治医にも家族の希望・要望を伝えることで、適切な対応ができています。	これまでのかかりつけ医を継続して支援することを説明しており、殆どの方が母体医療機関で月1回の受診や他の医療機関については、家族が対応されている。緊急時の対応や主治医との連携は、家族の安心となっている。また、皮膚科など専門医については、家族による受診を依頼しているが、困難な場合はホームでも柔軟に対応している。職員は食後の口腔衛生に努め、必要に応じ訪問歯科を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のバイタルチェック・観察を職員内で共有し訪問看護の際、相談できる様に支援している、夜間や緊急時も母体病院での対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携指示書を作成し入院時の混乱や戸惑いの軽減ができるように情報の提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは行っていないが重度化時の対応指針を作成し家族の方に医師を交えて話し合う場を設けています、家族の方の意見や本人様の意向を大切に支援に取り組んでいる。	終末期支援は行っていないが、重度化した場合の対応指針を作成し、家族へ説明をしている。入居者の最終を支える職員は、食事摂取が難しくなり、ホームでの対応が困難だと医師が判断するギリギリまで対応している。今年度、105歳の方の終末期を支えており、管理者をはじめ職員は、学ぶことの多い支援であったことや、今後も本人・家族の思いや意向を大切に組みたいとしている。	今後も人生の先輩である入居者を支援するという現場に誇りと自信を持って、入居者・家族に最良の時間を提供していきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人において救急救命の訓練に参加し、情報の共有をしている、又、日頃より緊急時マニュアルの確認や対応のシュミレーションをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間や昼間を想定した火災訓練を入居者の方と一緒にしている、地域住民の参加協力も得られ日常の火元チェックを必ず行い、避難場所の確認や訓練を行っている。	入居者も参加した火災避難訓練を昼・夜想定で実施している。訓練後に出された反省点は、次回に活かすことを共有している。先ずは火を出さない事を一番に、日頃から火元の安全チェックを徹底している。災害の備蓄については、米やソーメンなどの食量を備えている。	今後消防関係者に運営推進会議に参加を依頼するなど、連携を図ることで更なる安全管理の強化に繋がると思われる。今後もコンセントの埃のチェックやホーム周辺に可燃物や危険物がいないかなど、引き続き安全チェックの実施に期待したい。また、自然災害についても机上を含めた訓練も検討いただきたい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性の理解に努め、その人らしさを損なわないよう、人格の尊重に努め言葉かけや対応するよう心掛けている。	尊厳やプライバシーに配慮した支援については、法人内の研修会と共に日々の業務の中で共有を図っている。呼称は苗字や下の名にさん付けとし、方言を交えながらも節度ある言葉使いを管理者は指導している。また、その方の好みを理解し、衣類の選択や整髪などをサポートしている。入居時には、個人情報の使用について本人・家族の了解を得ており、職員の守秘義務についても指導が行われている。	
----	------	--	--	--	--

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や仕草、何気ない言動から、思いや希望を汲み取り時には、幾つかの選択肢を提示することにより自己決定への手助けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の一日の生活のリズムを把握した上で、様々な活動への参加を務めています。本人の希望する活動等があればそちらを優先としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力もあり、行きつけの美容院へ出かける方もおられます、その日に着る洋服を本人様に選んでもらったり、スカーフ等の小物を使うことによりその人らしい支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の日に、下ごしらえを手伝って頂いたり、食後の片づけを手伝って頂いている、又、入居者の方の好みのメニューを取り入れることで食事を楽しみになるよう支援している。	法人厨房からの食事提供や入居者の希望も取り入れながらホーム内での調理も行っている。地元の商店(穀米・鮮魚・精肉)の活用など食材にもこだわりながら、行事食の際は、刺身やノンアルコールも提供され、入居者の楽しみとなっている。食材の下ごしらえやテーブル拭き・下膳など個々のできることで食への関わりを支援しており、食事中も見守りや会話をしながら楽しい食事となるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録し、摂取状況の把握をしており、個々の状態に合わせ、刻み食にしたり、嚥下に不安のある方にはトロミを使うなどの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けを行い、必要に応じて個々のケアには、見守り・一部介助、全介助を行い、必要であれば、協力歯科医もあり歯科往診もできるので充実したケアができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握することで、時間を見てトイレ誘導を行い、必要な方は必ず、見守り・介助することでトイレでの排泄ができています。	自立の方の継続や声かけや誘導など個々にあった排泄支援に努めている。また、必要な方にはプライバシーに配慮しながら見守りや介助を徹底し、安全な支援に取り組んでいる。失敗のない排泄は、本人の尊厳や家族の負担軽減にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を防ぐため、食物繊維の多い食べ物や水分補給に心掛けている。それでも便秘のひどい方は医師に相談しその人に合った便秘薬の処方をしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴することができ、自分の入りたいときに入ることができるので、入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	個浴や機械浴が設けられたホームでは、毎日入浴の準備を行い基本的に午後から(13:30~16:30ほど)の支援が行われている。殆どの方が週3回程楽しまれており、足浴や季節湯を支援しながらゆっくりとした入浴の提供に努めている。浴室や脱衣所内は清潔に管理しており、採光の入る窓の柵もスッキリ整頓することで更に寛げる環境となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、その日の体調に合わせた休息をもらったり、不安で眠れない方には、話を聞いたりそばに居ることで眠れるので、安心できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等あれば、スタッフ間で申し送りをして入居者の方の薬の目的・副作用等の症状の少しの変化もあれば、記録や伝達することで必要時ナースや主治医に再確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野を生かしてもらえよう、生活の中で声掛けして、昔は得意だった遊びや、仕事に携わっていたこと、洗濯たたみ等無理しない程度に行ってもらおう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があればその方に合った外出支援をしているまた、家族の方と外出される方もおられ、近所を散歩中、近所の方と話しをしたりして外出支援している。	敷地内や近隣の散歩・散策は年間を通して行っており、散歩中の地元の方々との挨拶や会話は、入居者の笑顔を引き出している。また、祭りや桜・バラ見学、文化展に出品した作品を見に福祉センターへ出かけたり、近隣商店での買物(食材やおやつ)など、地域資源を活用した外出も確認された。個別支援では、気になる自宅や畑の様子を見に帰ったり、買物支援なども行われている。	ホームには短かな散歩コースとして活用できる中庭があり、今後も花木や植物、草花を探しながら季節を楽しむ外出に取り組まれることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が必要な方ばかりなので、事業所で1万円以内の預かり管理している、お金は随時間かれた際に使えることを説明しているので安心してもらっているし、買い物への支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方、自ら手紙を書くことは困難ではあるが、家族の方から手紙や電話があるときは、自室にてゆっくりと話ができる環境をつくります。希望されれば、電話は自由に掛けることの出来る支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の広い場所に作品の展示物を置いて楽しんでもらったり、日のあたる場所に数名で寛げる空間を利用したりして落ち着いてもらっている。玄関は、季節感を感じられるよう時期の花や行事ごとの雰囲気作りをしている。	中庭を挟んで建つ両ユニットは、間取りや広さなど異なった造りであるが、入居者の作品を掲示し、日当たりを活かしたり、入居者に応じたソファの配置などそれぞれの職員が工夫しながら居心地の良い空間を作っている。中庭の中心には桜の木が植えられ、入居者や来訪者にとっても開花が楽しみになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで皆さんとDVD鑑賞を楽しんだり、一つのテーブルを囲んで和気あいあいと会話が弾む光景が多々見られている。季節によって日のあたる場所にテーブルを移動したりしてそれぞれの方が重い思いに過ごせるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で過ごされていた馴染みのある物など本人らしい部屋になっています、家族の方も季節の変わるごとに模様替えをしてくださったり、季節の花を置いたり居心地の良い部屋の工夫に努めている。	入居時に馴染みの品や、本人が落ち着かれるのであれば何でも持ち込んで欲しい旨を伝えている。その後は、身体機能に合わせて家具の配置や必要な品の検討など、家族と相談しながら安全で安心できる居室環境に取り組んでいる。家族の中には本人が季節を感じることが出来る様な飾りや置物を持参されることもある。食後はそれぞれの居室に戻り絵を描いたり、陽の当たるベッドで一番寛ぎやすい態勢で昼寝をされる方など、いつもの時間を満喫されている姿を見ることができた。	持ち込みの品や量はそれぞれであり、個々にあった環境が作られている。今後は年末に本人の意向を聞き取り、その方の趣味や好みのカレンダーを準備し、新しい年を迎えることも一案と思われる。検討いただきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの方の出来ること、出来ないことを確認し、出来ないところはお手伝いするようにしている。スタッフの発見や意見共有し入居者の方の自立に向けた支援を行っている。		